

富山市立図書館

図書館だより

第64号
2014.10

ただいま建設中！新図書館情報 vol.2

移転開館まで
あと11ヶ月！

新図書館の施設の概要について

図書館本館は、来年8月下旬に西町に建設中の再開発ビルに移転開館する予定です。開館まで1年を切ったところであり、今回は新しい図書館の概要と資料の配置についてご紹介します。

施設の特徴

再開発ビルは、地上10階地下1階建てで、図書館のほかに（仮称）富山市ガラス美術館と銀行などが入る複合施設です。図書館は、事務室や書庫も含めると3階から6階の4つのフロアにまたがっています。

特徴的なのは、3階から5階の同じフロアに図書館とガラス美術館が併設しているということです。建物の中央部を斜めに貫く大きな吹き抜けがあり、

自然光を取り入れた開放的な空間を創り出しています。その吹き抜けを挟むように図書館と美術館があります。

例えば、図書館で本を読んだ後にガラス作品を鑑賞するというような、複合施設ならではの特色を生かし、新しい楽しみ方ができる施設になるよう整備していきます。



吹き抜けイメージ

吹き抜けは、フロアごとに位置をずらし、建物中心部を斜めに貫いています。人々が螺旋を描くように館内を回遊するイメージ。



現在の様子（8月末撮影）

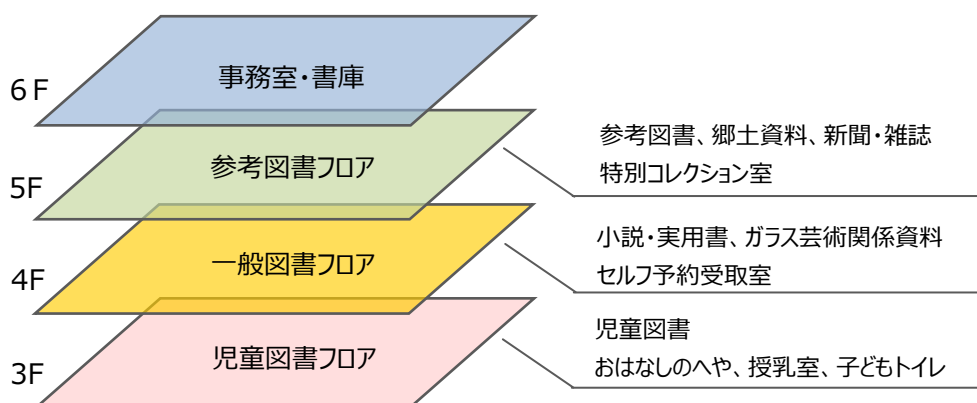
正面の外壁パネルの取り付けが完了し、建物の全容が見えてきました。空洞の部分はテラスで、ここから街の空気を感ずることができます。



吹き抜け付近フロアイメージ

設計には建築家の隈研吾氏が携っています。自然素材を生かす隈氏らしく、館内には木材が多く使われる予定です。

各フロアの配置案イメージ



3 F 児童図書フロア

3階は、赤ちゃんから中学生までを対象にした児童図書フロアです。絵本や童話のほか、学習に役立つ本を置きます。おはなし会などの子ども向けイベントを行う「おはなしのへや」は、親子がふれあえるスペースも設け、ゆったりと親子で座って絵本を読み合うことができます。

レファレンスカウンターでは、児童図書に関する読書相談や調べ学習のお手伝いをします。

4 F 一般図書フロア

4階は、小説や実用書などを置く一般図書フロアです。そのほかに、ガラス美術館との複合施設であることから、ガラス芸術に関連した資料を置きます。

また、このフロアには、予約した資料を自分で探して貸出手続きができる「セルフ予約受取室」を設ける予定です。ご自宅のPCやスマートフォンからインターネットで本を予約し、メールで連絡を受け、室内の書架から本を探し出し、気兼ねなく手続きができるようになります。



八尾図書館ほんの森の電動集密書架

5 F 参考図書フロア

5階は、調査・研究に役立つ資料を集めたフロアです。百科事典や辞書などの参考図書、郷土資料、新聞・雑誌を置きます。新聞は、過去の分や縮刷版もあわせて配置。雑誌は、ビジネス・医療健康情報・ファッションを中心に各種専門誌を多く揃える予定です。

また、現在本館6階に開設している山田孝雄文庫、岩倉政治文庫、翁久允文庫の3つの文庫をまとめ、特別コレクション室として開設します。

レファレンスカウンターでは、専門知識を持った司書に本や資料について相談することができます。

6 F 事務室・書庫

6階は、事務室と資料を保存する書庫です。現在の書庫は、5階層に分かれた積層書庫ですが、新館では効率良く収納できる電動の集密書架を導入します。

今回は主に資料の配置についてご紹介しましたが、そのほか館内の設備として、公衆無線LANの環境整備、自分で貸出手続きができるセルフ貸出機、自動返却処理されるブックポストなど、便利で新しい設備の導入を計画しています。

(本館 瀬口)

※コーナー名や諸室名は仮称であり、変更する場合があります。

名刺は語る 一名刺デザイン考

あなたは名刺をどのようにお使いですか？ 既に社会に出て自分の名刺を持っている方も、また、内定を獲得して来春から新社会人となる学生の方も、自身を表す名刺について一度考えてみるのはどうでしょう。

名刺は一度刷るとなかなか変える機会のないものですが、それでいてビジネスシーンでは重要な役割を果たします。名刺交換の印象が今後のやり取りを決定づけると言っても過言ではありません。



『ロベタなあなたを救うしゃべる名刺』
中野 貴史／著
日本実業出版社 2008

この本には、著者が考案した「しゃべる名刺」による名刺術が紹介されています。

「しゃべる名刺」とは・・・

1. 8面で構成された文字だらけの名刺
2. 履歴書以上の情報量を持つ名刺
3. 一人歩きする名刺

所属にはじまり、出身地、出身校、趣味、特技などなど、履歴書以上の濃い内容が盛り込まれているのが特徴です。また、折り方にも意味をもたせ、効果的に自分を演出できる仕組みになっています。名刺が印象的なため、配っていない人からも声をかけられることが増えた、と著者は語っています。

39歳で突発的に独立し経営難に陥っていた著者が、この名刺を考案したおかげで業績が上向きに。現在はビジネス名刺プランナーという肩書きにとどまらず、営業販促などのコンサルティングサポート、ブランディング（ブランド要素を強化して、競合企業との区別性を明確にすること）サポートなども行っています。

自分はロベタだという方、「しゃべる名刺」が気になった方は参考になさってはいかがでしょうか。

次に名刺のデザインをまとめた本を2冊紹介します。



『日本の名刺デザイン・コレクション』
グラフィック社編集部／編
グラフィック社 2011

『日本の名刺デザイン・コレクション』は、名刺を「ビジネス系」、「ショップ・ブランド系」、「クリエイティブ系」の3つのカテゴリに分けてあります。一般企業がビジネスで使う名刺から、インパクトのあるスタイリッシュなデザイン名刺まで、優れたデザインの名刺を約380点紹介した本です。



『世界の名刺「初めまして」のデザイン』
パイインターナショナル
2009

『世界の名刺「初めまして」のデザイン』は、世界各国の幅広い業種から集めた名刺200以上を収録しています。プロのデザイナーやイラストレーター、フォトグラファーから、創造性豊かなアマチュアまで、実際に使用されている革新的で目を引く作品が満載です。例えば、名刺の両端に紐が付いていて引いて回転させると文字になるものが印象的です。

デザインが突飛すぎて真似できないような作品も多いですが、ただ眺めてみるだけでも楽しくなる2冊です。

情報化が進んだ現代においても、名刺は紙媒体の情報伝達ツールとして大切なものではないでしょうか。いかに有効活用するか、それは本人次第ですが、たまには名刺について考えてみるのも一興と思います。

(本館 工藤)

レファレンスあれこれ

Q. 八尾和紙が、どのように使われてきたか知りたい。

A. まず概要をつかむため、和紙について書かれた参考資料を調査しました。『和紙文化研究事典』（法政大学出版局 2012）の「八尾紙」の項目には、主に売薬用紙についての記述がありました。そこには、「薬包紙・膏薬原紙・袋紙・紐紙・荷造り包み紙から帳簿紙・合羽紙まで、厚薄・大きささまざまであるほか、染色したものも含んできわめて多種であった」と書かれていました。売薬用紙以外にも、傘や提灯、障子用の紙がつけられていたようです。

さらに、『富山県史 民俗編』（富山県 1973）を調べました。時代ごとの使われ方の違いについては書かれていませんでしたが、版画用紙、障子紙、提灯紙、傘紙、帳面紙、売薬袋紙などに使われたとありました。「中でも傘紙とか提灯紙がこの八尾紙として有名であった」という記述もみられました。『八尾町史』（八尾町 1967）にも同様の記述があり、産地ごとの和紙の特色が詳しく書かれていました。

次に時代ごとの使われ方を詳しく調べるため、和紙関連の郷土資料を確認しました。『北陸産紙考 下』（紙の博物館 1978）の「八尾産紙と売薬紙」の章に、八尾和紙の歴史に関する詳細な記録が載っていました。八尾和紙の歴史については、「天正十三年（一五八五）、前田氏が領有しない以前は、京都禁裏の御料地であったが、その頃すでに紙が漉かれ、紙の租税を納めていた」とありました。売薬業によって発達する前にも、税として用いられていたようです。その後、八尾和紙の

ほとんどが売薬で消費されるようになると、両者は密接不離の関係になっていったと書かれていました。

明治時代中期頃から、製紙工場の発達により洋紙が主に売薬紙として用いられるようになりました。すると、売薬紙本位の体制から、傘紙や障子紙など、一般紙を主体とするように切り替えられていったそうです。時代の流れとともに、需要に合った和紙の生産が行われていたことがわかります。

昭和時代には、軍需用紙としても八尾和紙が使われ、「軍需用紙としては火薬包装紙、軍隊手帳用紙、食糧袋紙などであったが、戦時中は風船爆弾用紙も漉いた」と書かれていました。敗戦後には、多量の使い残りが下駄の鼻緒やレインコートに使われたそうです。

時代の移り変わりとともに、さまざまな用途をたどってきた八尾和紙ですが、現在はどうのように用いられているのでしょうか。

『富山の地域研究』（東京都立大学 2005）では、「おわら」によって土産物としての八尾和紙が認知度を高めていったと記述されています。一般に流通する紙がほぼ洋紙に切り替わったため、八尾和紙は加工品として生き残りを図りました。しかし、当初は他の紙産地との競合により、少しずつ衰退していきます。

その後、おわらによる八尾の観光化が進んだことにより、多種に及ぶ魅力的な加工品がある八尾和紙が、土産物として注目されるようになりました。

現在では、八尾だけでなく、富山駅前や高岡市の土産店で販売されるなど、富山の代表的な土産物となっています。

（本館 清水）